

1954 「コロンボ・プラン」への参加をきっかけに、日本が政府開発援助（ODA）をスタート

### 1965

4月

開発途上国への技術協力、相互理解、青少年育成を目的として、「日本青年海外協力隊（JOCV: Japan Overseas Cooperation Volunteers）」を創設

9月

選考試験実施  
463人が応募

10月

派遣前訓練開始



12月

初めての派遣、  
1次隊5人がラオスへ



1966

1~3月 カンボジア、マレーシア、フィリピン、  
ケニアへ35人を派遣



1968

広尾訓練所（東京）開所

1974

「青年海外協力隊」に改称



### 1975

協力隊創設10周年！

記念映画「アサンテサーナ わが愛しのタンザニア」完成

1965年、戦後の混乱を経て立ち上がった日本から、5人の若者たちがラオスに旅立った。彼らこそが、今や日本の、草の根の外交官として知られるようになった青年海外協力隊。その50年の歩みを振り返ってみよう。

# 青年海外協力隊

## 50年の歩み

1979

駒ヶ根訓練所（長野）開所



### 1985

協力隊創設20周年！

日本の青年の中南米への移住促進を目的とした  
「海外開発青年」を創設

### 1990

協力隊総派遣数が1万人を突破

40歳以上を対象にした「シニア協力専門家」、  
「移住シニア専門家」を創設



1994

二本松訓練所（福島）開所



1995

協力隊創設30周年

1996

「シニア協力専門家」を「シニア海外ボランティア」に、  
「海外開発青年」を「日系社会青年ボランティア」に、  
「移住シニア専門家」を「日系社会シニア・ボランティア」に改称

### 2000

協力隊総派遣数が2万人を突破

2005

協力隊創設40周年  
広尾訓練所閉所

2012

日本の民間企業と連携して現職社員を派遣する「民間連携ボランティア制度」創設

### 2015

協力隊創設50周年！



特集 青年海外協力隊  
つないだ、つながった50年

これまでの派遣数は、96カ国  
累計 4万6,926人

(2014年11月末現在)

[ 青年海外協力隊 ]



3万9,717人

© Kenshiro Imamura

[ シニア海外ボランティア ]



5,566人

© Satoshi Takahashi

[ 日系社会青年ボランティア ]



1,188人

© Koji Sato

[ 日系社会シニア・ボランティア ]



455人

© Atsushi Shibuya